

目次

W.H. ハドソンの共生思想と寿岳文章——ウィリアム・ブレイクの系譜の上で	1
佐藤光（東京大学大学院総合文化研究科教授）	
寿岳文章の抵抗——『滴る雫』の柔軟心	8
川端康雄（日本女子大学文学部英文科教授）	
竹友藻風と寿岳文章	15
藤原弘一郎（英学史家）	
寿岳文章の本づくりと思索の生成	
——『ブレイクとホキットマン』の製本技法再生の試み	38
磯部直希（立命館大学研究員）	
寿岳文章の和紙研究—柳宗悦と新村出との交流から—	49
吉野政治（同志社女子大学名誉教授）	
展覧会・講演会 報告にかえて	
版名としての「向日庵」	67
玉城玲子（向日市文化資料館館長）	
寿岳文章と向日庵本の時代	70
高木博志（京都大学人文科学研究所教授）	
寿岳文章の軌跡	81
中島俊郎（甲南大学名誉教授）	
寿岳文章・しづ ——「思想と生活」の実践	98
長野裕子（特定非営利活動法人向日庵理事）	
《書評》クレア・クッチオ、伊部京子「雁皮について」	114
《文学地図》 小説『朝』の舞台 大正デモクラシー期の大阪	117
あとがき 井上琢智（特定非営利活動法人向日庵副理事長）／編集後記	119